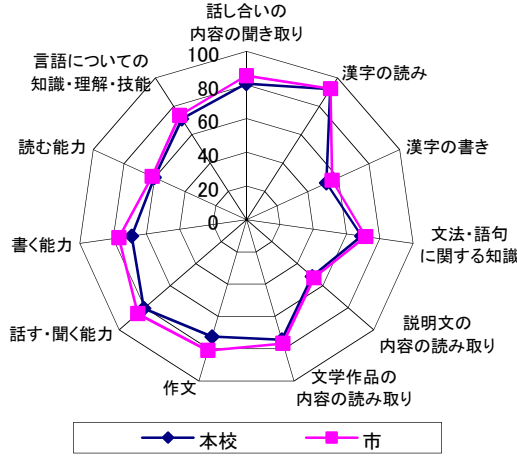


宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	80.7	85.4
	漢字の読み	92.0	92.4
	漢字の書き	52.2	56.0
	文法・語句に関する知識	69.1	71.7
	説明文の内容の読み取り	51.8	53.0
	文学作品の内容の読み取り	74.5	76.7
	作文	72.6	81.1
	話す・聞く能力	80.7	85.4
観点別	書く能力	68.9	76.6
	読む能力	60.0	61.6
	言語についての知識・理解・技能	71.0	73.5



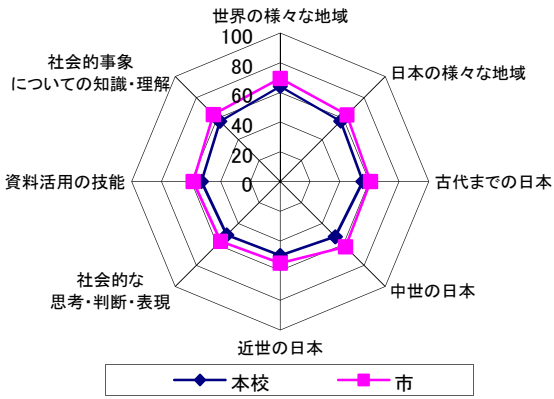
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	・本市平均と比べて4.7ポイント下回っている。市の平均値との差が大きかった問題である。現2年生が1年生の時の結果と比較すると、他の問題がそれほど変化していないのに対し、聞き取りの差が開いてしまった。集中して内容を聞き取ろうとしている生徒と、集中力のない生徒の差が激しい。話の趣旨はわかっているものの、細かな内容について理解できていない者が多い。	・授業の中で随時、聞き取りテストを実施しているが、それ以外にも普段の生活のなかで、集中して聞く習慣を身につけさせたい。聞き取りテストでのメモを取るトレーニングを重視し、スキルを覚えさせたい。また、話し手が何を伝えようとしているのか深く考えずに聞いている生徒もいるので、話し合い活動を授業の中で重視していきたい。
漢字	・本市の平均を読みは0.4ポイント、書きは3.8ポイント下回っている。普段から漢字テストを実施しているが、書き取りが苦手な生徒が多い。また、定期テストの前にはよく学習している様子が見られるが、普段からの練習が不足しているため、習熟していない傾向が見られる。	・授業の中で随時、漢字テストや練習を実施している。さらに集中して取り組ませたい。書き取りの時間を毎時間確保し、習慣化させる。定期的に小テストを行い、結果を積み上げていくことで意欲を高めたい。
文法・語句に関する知識	・本市平均と比べて2.6ポイント下回っている。文法事項である「動詞の活用の種類」と「類義語」についての問題では市の平均を上回ったが、「敬語」の問題では市の平均値を大きく下回った。普段からの言葉遣いや場に応じた言動が大切である。	・語句、特に言葉遣いについては、普段からの生活習慣での指導が大切である。丁寧にノートをとることや場に応じた話し方などの基本的な指導を重視していきたい。また、授業においても文章を書く機会を増やしていきたい。
説明文の内容の読み取り	・本市平均と比べて1.2ポイント下回っている。問題により市の平均を上回ったものもあるが、全体として文脈に即した内容の理解が不十分である。また、語彙が不足している生徒が多く、意味の理解も不十分である。根気強く最後まで文章を読み、最後まで問題に取り組むことが課題である。	・説明的文章の読解では、内容を細かなところまで、正確に読み取る能力が大切である。プリント学習や問題集などで、正確に読み取る力を養っていききたい。また、語彙を増やすため、漢字の練習を毎時間の始めに位置づけ、確認テストを引き続き行っていく。
文学作品の内容の読み取り	・本市平均と比べて2.2ポイント下回っている。特に文脈の中での語句の効果的な使い方についての理解が不十分である。説明的文章と同様に、語彙の不足も見られ、読解の妨げ・誤解を生んでいる要因になっている。	・文学的文章の読解で、登場人物の言動から心理に迫れるように、読み込みを深めていききたい。また、読書にもより親しめるよう「朝の読書」にも集中して取り組ませたい。上記の説明的文章と同様に語彙を増やし、多くの問題に触れ、問題に慣れ、解くことに抵抗感がなくなるようにしていきたい。
作文	・本市平均と比べて8.5ポイント下回っている。国語の総合的な能力が現れる領域である。伝えたい事柄を「整理する」「明確にする」「自分の考えを書く」全ての問題で下回っている。全体的に自分の意見を記述することが苦手である。作文を書く能力も不十分であることがわかる。さらには文章を書くことに対し最初から取り組む意欲が低い面がうかがえる。	・全国の正解率と比べるとそう差はないのだが、市との比較では大きく差がついている。授業での「書く単元」に力を入れていく。また、実際に作文を書き、お互いに読みあうことで、よい点を学べるような交流を重視していく。文章を書くことが苦手な生徒には、文章を原稿用紙に正しく写し、丁寧に書くことから始め、最終目標としては、あきらめずに最後まで問題に取り組む姿勢を身につけさせていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の様々な地域	64.1	69.4
	日本の様々な地域	57.5	63.4
	古代までの日本	55.6	60.8
	中世の日本	52.4	62.1
	近世の日本	49.7	54.9
観点別	社会的な思考・判断・表現	50.8	56.9
	資料活用・技能	53.0	58.7
	社会的現象についての知識・理解	57.4	63.7



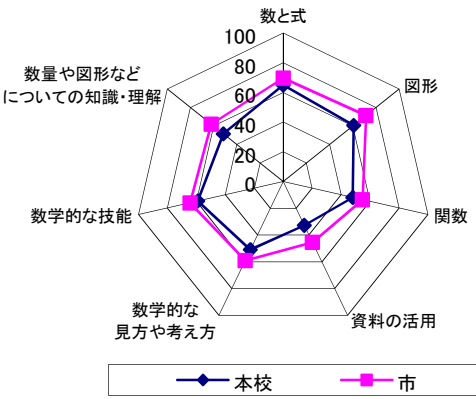
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	・市の平均と比べて5.3ポイント下回っている。地球の姿をとらえる問題は80.1%と正答率が高い。地球儀を活用して各大陸の位置関係を示す能力は身に付いている。しかし、世界の諸地域のEUの特徴について、資料を読み取る問題においては、市の平均を7.3ポイント下回っている。またEUの経済格差に関する資料を読み取る問題においても3.1ポイント下回っている。	・世界の諸地域の内容については、日常生活においての関連性があり無く、生徒たちが興味を持ちにくい領域である。生徒たちの身近な生活の中での世界とのつながりを調べさせる学習を取り入れていきたいと考える。グローバル社会に生きる生徒たちにとって、世界と日本の結びつきは今後、ますます重要な課題となってくるので、現代のさまざまな問題とともに世界の諸地域の特色について理解させていく授業を展開していきたい。
	日本の様々な地域	・市の平均と比べて5.9ポイント下回っている。日本の都道府県の位置と名称を問う問題においては、91.4%と高い正答率になっており、地図と関連づけて理解している。しかし、中京工業地帯について問う問題においては34.0%と、市の平均を17.1ポイント下回っている。また中部地方に関する問題については41.8%と市の平均を8.3ポイント下回っている。	・日本のすがたや諸地域の内容については日常生活との関連性も高く、生徒たちの関心も高い領域である。小学校において基礎的な内容を学習しているので生徒たちの既習知識を大いに活用していきたい。白地図での作業学習に加えて自分たちが生活している地域との比較や関連性にも気づかせてさまざまな地理的事象について理解させていく授業を展開していきたいと考える。
歴史	古代までの日本	・市の平均と比べて5.2ポイント下回っている。縄文土器について問う問題においては、81.6%と高い正答率になっている。しかし、7世紀半ばの朝鮮半島の様子についての問題においては、30.1%と、低い正答率になっている。法隆寺についての問題に関しては、50.4%で市の平均を5.7ポイント下回っているものの、全国の平均を11.8ポイント上回っている。	・古代の日本についての学習は写真などの資料が少なく生徒たちの興味関心を高めることに工夫が必要な領域であると考え。東アジアとのつながりの中で日本という国の成り立ちを学習していくので世界的な内容も含まれる。中国の歴史書や史料などを豊富に使用し生徒たちに読み取らせる学習を取り入れることにより古代歴史への興味を高め、知識の理解を深めていきたい。
	中世の日本	・市の平均と比べて9.7ポイント下回っている。鎌倉時代に関する問題においてはいずれも55%を上回っている。しかし、写真資料を使った室町時代の文化を問う問題は39.8%と低い正答率になっており、市と全国の平均も下回っている。武士の館の特徴を読み取り、記述で表現する問題については59.4%で、市の平均を13.8ポイントと、大幅に下回っている。	・写真資料を使って室町時代の文化を問う問題の正答率が低いことから、授業において写真資料を多く取り入れたい。資料集以外にもインターネットなども活用し、生徒たちに写真資料から考えさせる課題を設けて資料活用の学力を高めていきたい。またグループワークなどの授業も取り入れ他の生徒の意見を参考にして自分の考えをまとめる作業を取り入れることにより、記述での表現力を高めたい。
	近世の日本	・市の平均と比べて5.2ポイント下回っている。豊臣秀吉の統一事業の問題においては79.3%と正答率が高く戦国時代から安土桃山時代への興味関心の高さを感じる。しかし江戸時代について、史料をもとに考え、記述する問題においては42.8%と低い結果となっている。市の平均も45.7%と低く、記述による表現を苦手とする傾向があることが分かる。	・近世の日本は戦国時代なども含まれるため生徒たちの興味関心が高い領域である。テレビなどの番組で取り上げられることも多く、生徒たちの中には戦国時代や江戸時代について高い知識を習得している生徒も多い。歴史年表を作成させるなどの学習を取り入れ、歴史の流れをつかませる授業を展開していきたい。また記述式の課題をワークシートに取り入れ生徒たちの苦手意識を改善させていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	64.9	69.7
	図形	60.7	71.2
	関数	48.1	54.7
	資料の活用	32.7	45.4
観点別	数学的な見方や考え方	50.9	59.1
	数学的な技能	59.0	64.4
	数量や図形などについての知識・理解	51.4	62.1



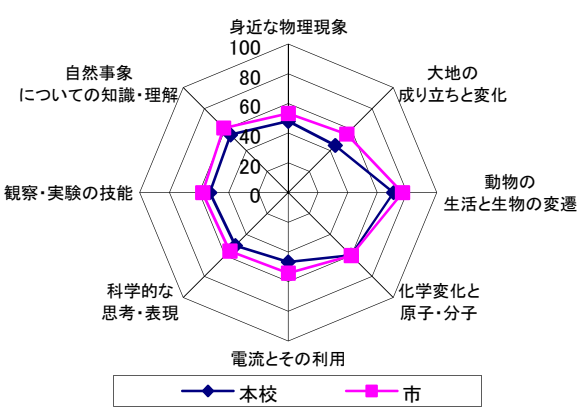
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・宇都宮市と比べると、4.8ポイント低い。内容を分析してみると、「文字式の除法」が7.8ポイント、「連立方程式の解き方」が6.8ポイント、「連立方程式の応用」が9.7ポイント低いことがわかる。文字式の除法では、割る数を逆数にして乗法に直すことの理解が不十分であること、連立方程式では継続的な計算練習が不足していることが考えられる。	・文字式の除法については、除法の式を乗法の式に直すことや逆数の作り方を、問題練習の答え合わせの中で間違いやすい部分としてより丁寧に確認していきたい。 ・連立方程式の加減法と代入法の計算問題を解いて復習する時間を、連立方程式の学習後も授業の中で定期的にとっていきたい。
図形	・宇都宮市と比べると、10.5ポイント低い。内容を分析してみると、「空間図形の位置関係」が22.3ポイント、「半球の体積を求めること」が13.1ポイント低いことがわかる。空間図形の位置関係の決まりや球の体積の公式などの空間図形の基本的な知識に関する学習内容の復習が不十分であることが考えられる。	・空間図形の位置関係では図形の提示の仕方を目で見てわかりやすいように工夫し、球の体積などの公式についてはどうしてそのような公式が導かれるのかに重点をおいて指導していくことで、理解を確かなものにしていきたい。 ・学習後も繰り返し学習する力をつけるために家庭学習が習慣化するよう、課題提示の仕方も工夫していきたい。
関数	・宇都宮市と比べると、6.6ポイント低い。内容を分析してみると、「1次関数の式から傾きと切片を読み取ること」が9.4ポイント、「1次関数のグラフをかくこと」が8.0ポイント低いことがわかる。式の中で、傾きと切片を逆に覚えてしまったり、グラフ上での傾きの意味の理解が不足していたと考えられる。	・1次関数における用語は、式・表・グラフのそれぞれの中での意味や役割を理解していくことが大切である。この3つの関連性を、授業の中で指導する場面をできるだけ多く意図的に設けていくよう心がけていきたい。 ・グラフのかき方については、式から表をイメージさせることにより点の動き方をわかりやすく理解させたり、傾きと切片のグラフ上での意味をよく確認しながら、反復練習をさせていきたい。
資料の活用	・宇都宮市と比べると、12.7ポイント低い。内容を分析してみると、「度数分布表から相対度数を求めること」が9.9ポイント、「近似値の真の値の範囲を求めること」が13.2ポイント、「中央値を求めること」が15.1ポイント低いことがわかる。相対度数や中央値の求め方を含めた、「資料の整理」に関する学習内容の復習が不十分であることが考えられる。	・相対度数の求め方を再確認させるとともに、求め方の中で割り算を使用するので、割り算でのつまずきを少なくするために小数の割り算について必要に応じて個別に指導していきたい。 ・近似値の真の値の範囲については、四捨五入の仕方や不等号を使った範囲の表し方の復習をさせていきたい。 ・中央値の意味を再確認させるとともに、生活の中の具体的な場面で扱いながら理解を深めさせていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	48.0	53.4
	大地の成り立ちと変化	44.9	55.7
	動物の生活と生物の変遷	70.9	76.9
	化学変化と原子・分子	59.6	60.0
	電流とその利用	46.7	54.2
観点別	科学的な思考・表現	50.5	55.6
	観察・実験の技能	52.9	57.7
	自然事象についての知識・理解	55.0	61.5



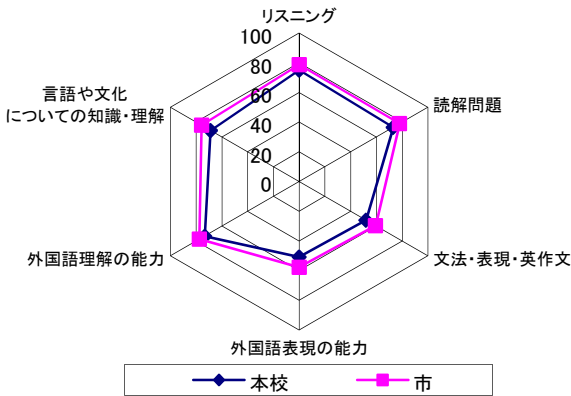
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	・市全体の平均と比べ、5.4ポイント下回っている。具体的には、「光と音の性質」で5.0ポイント、「力と圧力」で5.5ポイント低い。1学年での内容の定着が不十分な面が見られる。	・「身近な物理現象」については、日常生活で経験していることもあり、比較的興味・関心は高い。しかし、別の領域の授業になってしまうと、自主的に復習する生徒は少ない。したがって、定期的に問題に触れさせ復習をさせていきたいと思う。
大地の成り立ちと変化	・市全体の平均と比べ、10.8ポイント下回っている。具体的には、「火山活動と火成岩」で10.9ポイント、「地層の重なり」で10.8ポイント低い。1学年での内容の定着が不十分な面が見られる。	・「大地の成り立ちと変化」については、実験・観察の難しい内容であるため、DVDなど視聴覚教材を利用し少しでも興味・関心を高め、理解に繋げていきたい。
動物の生活と生物の変遷	・市全体の平均と比べ、6.0ポイント下回っている。具体的には、「動物の分類・生物の変遷と進化」で6.0ポイント低い。	・「動物の生活と生物の変遷」については、犬や猫など身近な動物には興味を示すので、共通点や相違点などを通して、他の動物への関心を持たせていきたい。
化学変化と原子・分子	・市全体の平均と比べ、0.4ポイント下回っている。具体的には、「物質の成り立ち」で2.0ポイント低く、「化学変化」で1.3ポイント高い。	・「化学変化と原子・分子」については、実験・観察が多く設定されており、生徒の興味・関心も比較的高い。不思議な事が実験を通して理解できたときの喜び数多く味わわせた。
電流とその利用	・市全体の平均と比べ、7.5ポイント下回っている。具体的には、「電流の性質」で7.5ポイント低い。計算の苦手な生徒が多いためと思われる。	・「電流とその利用」については、電流など目に見えない内容であり、グラフの問題や計算問題が多いため、生徒の興味・関心は低い。できるだけ身近な現象を取り上げ、課題意識をもって実験・観察に取り組めるよう工夫していきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	リスニング	75.1	78.7
	読解問題	73.0	78.0
	文法・表現・英作文	51.9	59.4
観点別	外国語表現の能力	50.8	57.8
	外国語理解の能力	73.3	77.6
	言語や文化についての知識・理解	68.9	75.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング	他の領域と比べると、正答率が高いが、市の平均より3.6ポイント下回る結果となった。結果の詳細によると、対話の内容を聞き取り適切に回答する問いや、英文の要点を聞き取る問いの正答率が低かった。	できる限り英語を聞く機会を多く設けるようにしていく。また教師やALTの質問に答えたり、インタビュー活動などを通して生徒同士も会話のやりとりをしたりするなどして、適切に回答する力も身に付けさせたい。
読解問題	教科書でもまとめた英文を読み取る教材が増えたためか、昨年より少し市の平均に近づいた。しかし長文や会話文の概要をつかむ問いの正答率が低く、英文の内容がおおまかにとらえることに課題が見られる。	英文の読解力向上のため教科書の読み物教材や、それ以外の英文にも触れる機会を持ちたい。まずは大まかな内容をとらえられるような発問をして、概要をつかむ練習を繰り返し行っていく。
文法・表現・英作文	正答率が、51.9%と市の平均を7.5ポイント下回っている。解答の傾向を見ると、場面に応じて英文を書く問題、既習の語彙や文法を駆使して、自分自身のことを書き表す問題では、無解答の生徒が約3割見られる。	基本的な語彙の定着や文法事項の理解を深めるために、基本文の反復練習や小テストを行っていく。また英文を書くことを苦手とする生徒が多いので、身近な話題や自分自身のことを英文で表す活動も取り入れ、添削を行うことで生徒が間違いに気づき、復習することで表現力を高めさせたい。